

## 企業訪問報告2



今回も地元の企業さんにずくませ修行のお願いがてら、今年の求人状況をお聞きしてきました。この企業には昨年本校より2名の採用を頂きました。本年も昨年並みに是非とお願いするつもりでございましたが、極めて厳しいお話しを頂いて来ました。「昨年の今頃はすでに大学短大卒の採用が内定していたが、今年は全く見通しが付かず未だに手付かざる状況にある」とのことです。まして高校生についても全く採用見通しが立っていないとのこと。「正社員を採ると、景気動向で調整がきかないために、景気動向を見て当面はパート等で対応するしかないのかもしれない」「上伊那地区は自動車関連の仕事が多く、まだ自動車関係は厳しい状況にある」。しかし「先のことを考えれば若い人を採用していかないと企業としても困ることになるし、箕輪進修高校さんとは地元での繋がりもあり何とかしたいと思っているが、7月1日からの求人が出せるかは今の時点で何とも言えない」ということです。先日の企業さんは幾分明るい見通しが出されましたが、やっぱり現実には厳しいようです。

### 長野県の有効求人倍率0・50倍を割る・最低を更新 <SBC ニュース 5/1>

県内の雇用情勢は悪化に歯止めがかからず、3月の有効求人倍率は0・47倍と初めて0・5倍を割り込みました。

長野労働局によりますと3月の県内の有効求人倍率は0・47倍と2月を0・04ポイント下回り、過去最低となりました。有効求人倍率が0・5倍を割り込むのは、1963年に統計を取り始めて以来初めてです。

有効求人倍率を同じ3月で比べると、去年は1・12倍でしたが、今年は0・47倍と1年間で半分以下に落ち込みました。

長野労働局では有効求人倍率の悪化傾向は「しばらく続く」としています。一方、去年10月から来月までに職を失ったり、職を失うことが決まっている派遣などの非正規労働者は、9、443人と引き続き全国で2番目の多さになっています。

上の記事は、5月1日のSBCニュースです。一部の業種ではようやく底をつき回復傾向が少し見えてきたと言ったところもありますが、県内の工業関係を中心にまだ厳しいようです。最近の株価の動きを見ると一時期より大分持ち直してきていますが、まだ全体の景気に反映してきていないようです。少しでも明るいニュースが出てくると景気も好転してくるのでしょうが・・・



季節はまもなく初夏を迎えようとしています。景気の春はいつ訪れるのでしょうか。春の訪れが待ち遠しいものです。は～るよ来い、は～やく来い・・・

それにつけても皆さんは今回のテストしっかり取り組んでおきましょう。